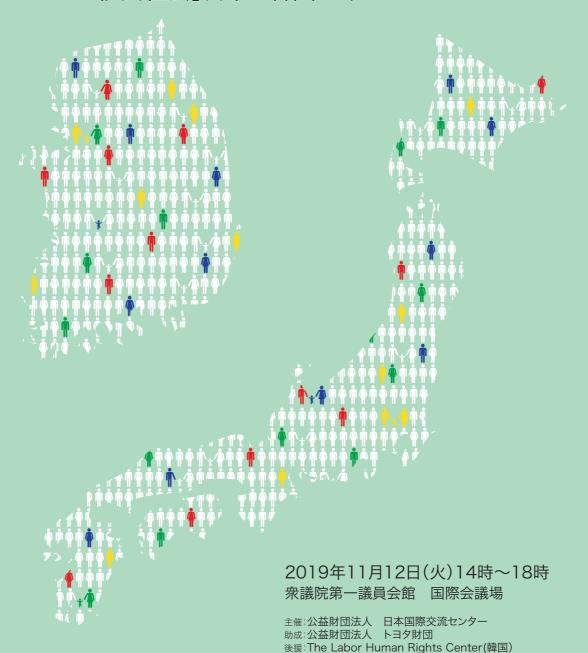
国際シンポジウム

移住者として生きる

――「移民社会」日本と韓国の今とこれから――



Solidarity for Asian Human Rights and Culture(韓国)

移住者として生きる

一「移民社会」日本と韓国の今とこれから一

日本と韓国は、少子高齢化による人口減少と、移住者の増加による社会の多文化・多民族化という社会経済の大きな変化が進展しています。こうした社会経済の変化は、教育、医療、労働、福祉などの従来の社会システムに新たな課題を提示すると同時に、移住者の人権を保障しながら移住者のもつ多様性を生かすことができるシステムとは何かという新しいアイデアを求めるものです。

さらに日本と韓国が社会経済の変化に対応できる新たなシステムを構築していく 上で、法制度と政策に直接影響を受け、その制度と政策を主体的に活用すべき存在 である移住者とそのコミュニティの声を聴き、その役割を社会的に認識することは 欠かせません。

本シンポジウムでは、こうした問題意識のもとで、「移民社会」日本と韓国で生きる移住者と、移住者にかかわる様々な取り組みをリードする日韓の専門家がそれぞれの視線から、多文化・多民族な「移民社会」日本と韓国の今を語り、これから共にどのような社会を創っていくかについて議論を行います。

本シンポジウムは、公益財団法人トヨタ財団の助成により、2017年秋から2年間、日韓に暮らす移住者とそのコミュニティ(ネパール、ミャンマー、ベトナム、フィリピン)の交流と学びを通じて、当事者の目線から現状を捉えなおし、今後の方向性と具体的な施策を模索することを目的に実施してきた「移住当事者による政策提言」プロジェクトの成果を広く公表する機会として開催いたします。



次第

14:00~14:05 開会あいさつ

大河原 昭夫 (公財) 日本国際交流センター 理事長

第一部 「移民社会」日本と韓国

(日韓同時通訳)

14:05~14:30 報告 日本と韓国の移民政策と移住者

報告者: 李 惠珍 (公財) 日本国際交流センター シニア・プログラム・オフィサー

14:30~15:30 パネルディスカッション

ホスト社会の目線から:「移民社会」日本と韓国を展望する

司会: 李 惠珍

パネリスト: 鳥井 一平 移住者と連帯する全国ネットワーク 代表理事

毛受 敏浩 (公財)日本国際交流センター 執行理事、チー

フ・プログラム・オフィサー

ソク・ウォンジョン 「外国人移住労働者の人権のための会」 所長

イ・ワン アジア人権文化連帯 活動家(前代表)

15:30~15:45 休憩

第二部 日本と韓国に生きる移住者として

15:45~16:30 ダイアローグ 移住者として生きる:世代と空間を超えて

(日英同時通訳)

司会: イ・ワン

対談: ガン・スルギ 「Uijeongbu EXODUS移住民センター」活動家

レイ・ベントゥーラ ジャーナリスト、映像作家

16:30~17:50 パネルディスカッション

移住者の目線から:「移民社会」日本と韓国の今とこれから

(日韓同時通訳)

司会: 毛受 敏浩

パネリスト: マリップ・センブ NPO法人PEACE 理事長

チャン・フォン・ナム (一社) 在日ベトナム人協会 事務局

シュレスタ・ブパール・マン エベレスト・インターナショナル・

スクール・ジャパン 理事長

ソ・モ・ツ 在韓ミャンマー労働者福祉センター 運営委員長

ガン・スルギ

17:50~18:00 閉会あいさつ



登壇者略歷

◆開会挨拶



大河原 昭夫 (おおかわら あきお) (公財)日本国際交流センター 理事長

1973年住友商事株式会社入社、海外運輸部、自動車部等を経て1991年よりワシントン事務所次席、1997年より情報調査部にて部長代理、部長を歴任。2004年より(株)住友商事総合研究所に勤務、2006年より2013年まで同研究所取締役所長を務め、2014年4月より現職。日米文化教育交流会議(カルコン)委員、ベルリン日独センター評議員を兼務する他、日英21世紀委員会日本側ディレクター、日独フォーラム委員、日韓フォーラム幹事委員、国際保健の分野では、グローバル・ヘルスと人間の安全保障プログラム運営委員会幹事、グローバルファンド日本委員会ディレクター等を務める。慶應義塾大学法学部卒。

◆第一部 「移民社会」日本と韓国



李 惠珍 (イ・ヘジン)

(公財)日本国際交流センター シニア・プログラム・オフィサー

韓国出身。2003年に留学生として来日。一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了。博士(社会学)。一橋大学、お茶の水女子大学のリサーチ・フェローを経て2014年11月より現職。移住当事者として、日韓の移民政策、アジアの移住労働を研究する傍ら、移住者支援活動にも参加。 著書に、"Challenges of and Coping with Immigration in Korea: The State, Civil Society, and Migrant Workers" (Asia on the Move: Regional Migration and the Role of Civil Society, JCIE, 2015)、「問われる『一時的』雇用の発想一韓国を例に外国人政策を考える」(朝日新聞出版、『Journalism』No. 348)



イ・ワン (Lee Wan)

アジア人権文化連帯 活動家(前代表)

大学卒業後、「プチョン外国人労働者の家」で相談員として移住者活動に携わり、2004年に「アジア人権文化連帯」の立ち上げにかかわり昨年まで代表。文化観光部の「マイグランツ・アリラン」(2006~08)、「全国移住者地域生活文化祭り」(2007~08)にて企画・事業統括者、国連の人種差別撤廃条約関連NGO活動の代表などを歴任。人種差別や文化多様性等の研究活動も活発に展開し、文化体育観光部の「文化多様性」関連事業の諮問委員(2014~)、人材養成研修責任者(2015、2018)、国家人権委員会「嫌悪差別対応特別委員会」委員(2019~)等を務める。





ソク・ウォンジョン (Seok Wonjung)

「外国人移住労働者の人権のための会」 所長

大学生の時から労働運動に携わり、2000年「外国人移住労働者人権のための会」の設立当初から、労働相談、調査研究、政策提言、コミュニティの組織化など移住者の人権の保護と向上のための活動を行う。2015年よりソウル市の移住者支援機関である「ソンドン外国人勤労者センター」のセンター長。移住者関連団体のネットワークである「外国人・移住労働運動協議会」の共同代表、運営委員長などを歴任。2016年より「移住背景児童青少年基本権ネットワーク」のメンバーとして外国ルーツの子ども・青少年の基本権保護のための活動を行っている。国家人権委員会、法務部にて移住者および人権に関連する諮問委員をも務める。



鳥井 一平 (とりい いっぺい)

移住者と連帯する全国ネットワーク 代表理事

1990年以来外国人労働者の権利支援活動に携わる。1993年、「外国人春闘」を組織化。社会的に「外国人労働者問題」を認知させる。2005年、外国人技能実習生が時給300円で働かされている実態を告発し、技能実習生支援活動を本格化。「現代の奴隷制」と批判される技能実習制度の問題を追及してきた活動と永年にわたる外国人労働者支援が認められ、アメリカ国務省から2013年度の"Trafficking in Persons Report Heroes(人身売買と闘うヒーロー)"に選ばれた。外国人技能実習生権利ネットワーク運営委員、全統一労働組合特別執行委員、JNATIP(人身売買禁止全国ネットワーク)共同代表、中小労組政策ネットワーク事務局長、自主生産ネットワーク代表。



毛受 敏浩(めんじゅ としひろ)

(公財)日本国際交流センター 執行理事、チーフ・プログラム・オフィサー兵庫県庁で10年間の勤務後、1988年より日本国際交流センターに勤務。多文化共生・移民政策、草の根の国際交流など多様な事業に携わる。慶応大学等で非常勤講師を歴任。内閣官房地域魅力創造有識者会議委員(2018)、文化庁文化審議会(国語分科会日本語小委員会)委員(2019~)、新宿区多文化共生まちづくり会議会長(2012~)。著書に『限界国家一人口減少で日本が迫られる最終選択』(朝日新書、2017)等多数。月刊文芸春秋の座談会「亡国の移民政策」(2018年11月号)は年間読者賞を受賞。慶応大学法学部卒。米国エバグリーン州立大学公共政策大学院修士。



ガン・スルギ (Kang Seul-gi)

「Uijeongbu EXODUS移住民センター」 活動家

韓国(母)とフィリピン(父)のダブル(移民2世)。韓国で生まれ、4歳から3年間フィリピンで暮らす。韓国で高校卒業後、フィリピンのMiriam大学で国際開発学を勉強しながら、貧困地域の児童及びKopino(韓国人とフィリピン人の間に生まれた子ども)へのフォーカス・グループ・インタビュー活動を行う。大学卒業後、ユネスコ韓国委員会、国際開発NGOの活動家として、アフリカで3年間地域開発事業に携わった後、韓国で非営利団体にて住民運動の組織化と国際ネットワーキング活動を担当。2014年より、Uijeongbu EXODUS移住民センターで移住者のための支援活動に従事。



レイ・ベントゥーラ (Rey Ventura) ジャーナリスト、映像作家

フィリピン・イサベル州出身。1987年に日本に留学。学生ビザの失効後も日本に残り、横浜・寿街で日雇い労働者として一年間過ごした経験を「Underground in Japan」(Jonathan Cape、1992)として出版。アジアプレス・インターナショナルのマニラ特派員(1996~2000)を務め、現在は大学でジャーナリズムと英語を教える傍ら、NPOでボランティア活動を行っている。著書に、「Into the Country of Standing Men」(Ateneo de Manila University Press、2007)、「Cherry Blossoms in the Times of Tsunami and Tsunami」(Ateneo de Manila University Press、2014)」等



シュレスタ・ブパール・マン (Bhupal Man Shrestha) エベレスト・インターナショナル・スクール・ジャパン 理事長

ネパール出身。2003年に留学生として来日。2011年に創価大学大学院経済学研究科博士課程を修了後、新宿区で在日ネパール人向けのネパール語新聞を発行する株式会社GMTインターナショナルを設立。2013年4月にネパール政府の認可を受けたネパール人学校「エベレスト・インターナショナル・スクール・ジャパン」を設立し、理事長を務める。新宿多文化共生まちづくり会議委員(2012~18)、東京都多文化共生推進委員会委員(2017~)など多文化共生と在日ネパール人コミュニティの活動に携わる。千葉商科大学、創価大学の非常勤講師。経済学博士。



ソ・モ・ツ (Soe Moe Thu)

在韓ミャンマー労働者福祉センター 運営委員長

ミャンマー出身。1995年に来韓。2003年より移住者運動に携わり、移住 労働者による多国籍バンド「Stop Crackdown」のメンバーとしても活 動。「Burma Action Korea」幹事、「Migrant Workers TV」代表・ド キュメンタリーPDなど歴任。2013年に在韓ミャンマー人と協働組合型会 社「ブドウック・グロリー」を設立し、人権活動やミャンマーの子ども・ 貧困層への支援を行う。また、在韓ミャンマー労働者の権利保障や教育等 を行う「ミャンマー労働者福祉センター」(2019年)の設立を手掛け、 運営委員長を務める。韓国人権財団「2010人権芽胞章」、国家人権員会 の「人権賞」(2010年)受賞。2011年に最高裁より難民認定。



チャン・フォン・ナム (Tran Phuong Nam)

(一社) 在日ベトナム人協会 事務局

ベトナム出身。2006年に留学生として来日。朝日新聞奨学生として新聞配達をしながら、専門学校を修了し、東京工科大学へ編入学。3年生で退学後、長野県の農場でのレタス栽培、ITベンダー会社でのシステムエンジニア、ベトナム人経営のITベンチャーでのブリッジシステムエンジニアを経て、2018年より現職。2013年の川崎ベトナム留学生支援会の設立に参加し、在日ベトナム青年学生協会の宣伝副部長を務めるなど、留学生・若者支援に携わる。また、「ベトナムフェスティバルin川崎」や、「ベトナムフェスティバルin神奈川」の運営メンバー、実行委員を担当するなど、多文化交流事業にも参画。



マリップ・センブ (Marip Seng Bu)

NPO法人PEACE 理事長

ミャンマー出身。1992年に難民として来日し、在日カチンコミュニティ(2005年)や、在日難民および難民支援組織、大学生などよるネットワーク組織の難民連携委員会(2008年)を組織。難民連携委員会の事務局長。2012年にミャンマー・少数民族を支援するNPO法人PEACEを発足。教育事業と平和構築事業を軸に、成人を対象とした日本語教育事業や、ミャンマールーツの子どもを対象としたミャンマー語教育事業等を運営。難民連携委員会では学生団体J-FUNユースと連携し、在日難民二世の子どもへの学習支援教室を運営。2012年から新宿区多文化共生まちづくり会議の委員。

PUBLIC SYMPOSIUM

Listening to the Views of Migrants

Japanese and Korean Societies Living with Migrants

Present and Future

Japan and Korea are currently experiencing unprecedented socioeconomic changes triggered by a shrinking population stemming from a declining birthrate and an aging population, and from a more culturally and racially diversified society brought about by an increasing number of migrants. Such socio-economic changes pose new challenges to the existing systems of education, health, labor, and welfare. At the same time, they provide an opportunity to come up with new ideas for the society to set up systems that would benefit from the migrants' diversity while guaranteeing their human rights.

For Japan and Korea to establish new systems in response to these socio-economic changes, it is essential to listen to the views of migrants and their communities as they will be the ones to be directly affected by the laws and policies put in place. Migrant communities should be given due recognition, with their voices heard and their roles in society acknowledged.

In this symposium, migrants living in Japan and Korea, as well as experts from both countries who are leading various initiatives to support them, will discuss the current situation in Japan and Korea where the influx of migrants have led to greater cultural and racial diversity in their societies. Particiants will also discuss how all parties can gather force to create societies that can respond to the needs of diverse groups of people.

^{*}This symposium aims to disseminate findings of JCIE's 2-year project on "Policy recommendations to be made by migrants through proactive exchange and learning among migrants in Japan and Korea" supported by the Toyota Foundation International Grant Program since autumn 2017. The project is intended to re-examine the current situation from the perspective of migrants by commnicating with them and their communities in Japan and Korea, and to explore future directions and specific measures.



AGENDA

14:00-14:05 **Opening Remarks**

Akio Okawara, President and CEO, JCIE

14:05–15:30 SESSION 1 Societies living with Migrants: Japan and Korea

(Japanese-Korean simultaneous translation available)

14:05-14:30 OVERVIEW Policies on Immigration and Migrants in Japan and Korea

Hyejin Lee, Senior Program Officer, JCIE

14:30-15:30 PANEL DISCUSSION

Prospects for Societies Living with Migrants

(Japan and Korea)

Hyejin Lee MODERATOR:

Ippei Torii, Toshihiro Menju, Wan Lee, Wonjun Seok PANELISTS:

15:30-15:45 (Coffee Break)

15:45–17:50 SESSION 2 Listening to the Views of Migrants in Japan and Korea

15:45-16:30 **DIALOGUE** Living as Migrants Across Generations and

Spaces

(Japanese-English simultaneous translation)

Wan Lee MODERATOR:

SPEAKERS: Seul-gi Kang, Rey Ventura

16:30-17:50 PANEL DISCUSSION

> Migrants' Perspective: Present and Future of Japanese and Korean Societies Living with **Migrants**

(Japanese-Korean simultaneous translation)

MODERATOR: Toshihiro Menju

Marip Seng Bu, Tran Phuong Nam, Bhupal Man PANELISTS:

Shrestha, Soe Moe Thu, Seul-gi Kang

17:50-18:00 **Closing Remarks**





Akio Okawara

President and CEO, Japan Center for International Exchange (JCIE)

Akio Okawara is president and CEO of the Japan Center for International Exchange (JCIE), one of the leading independent, non-profit organizations in the field of international affairs in Japan. He assumed the position in April 2014 after a long career in international business. He is concurrently appointed panel member of the US-Japan Conference on Cultural and Educational Interchange (CULCON) and a member of the Foundation Council of the Japanese-German Center Berlin. At JCIE, he also serves as Japanese director of the UK-Japan 21st Century Group, chair of the Roundtable on Japan's Migration, and director of the Global Health and Human Security Program Executive Committee and of the Friends of the Global Fund, Japan (FGFJ), among others.

Prior to joining JCIE, he was executive director of the Sumitomo Shoji Research Institute from 2006 to 2013, where he oversaw research and analysis on domestic and international political and economic trends. He started his career at Sumitomo Corporation in 1973 and served in the automotive, overseas transport, and research departments during the span of his 40-year career with the company, including several assignments in the United States. Mr. Okawara graduated from Keio University with a BA in law and also studied at Williams College in Massachusetts

SESSION 1 Societies living with Migrants: Japan and Korea



Hyejin Lee

Senior Program Officer, Japan Center for International Exchange (JCIE)

Hyejin Lee is from South Korea coming to Japan in 2003 as a student. After completing the PhD course in sociology at Hitotsubashi University, she worked as research fellow at Hitotsubashi University and Ochanomizu University. In November 2014, she joined JCIE, and as a migrant herself, she has been conducting researches on migration policy of Japan and labor migration in Asia, as well as actively participating in various activities to support migrants. She has been a visiting researcher at the Institute of Comparative Economic Studies of Hosei University. Her publication includes "Challenges of and Coping with Immigration in Korea: The State, Civil Society, and Migrant Workers" (Asia on the Move: Regional Migration and the Role of Civil Society, JCIE, 2015), and "Towareru 'ichiji-teki' koyou no hasso – kankoku wo rei ni gaikokujin seisaku wo kangaeru (Temporary Employment in Review – A Perspective on Policy for Foreigners from a Korean Experience)" (Asahi Newspaper Press, Journalism, No. 348, 2019).





Wan Lee

Former Chief Representative, Solidarity for Asian Human Rights and Culture

After graduating from university, Wan Lee started getting involved in activities to support migrants working as a counsellor of the Bucheon Foreign Worker's House in Korea. In 2004, he participated in the establishment of the Solidarity for Asian Human Rights and Culture, and he served as its chief representative until 2018. He has worked as planning and implementation supervisor of the Korean Ministry of Tourism's "Migrants Arirang" (2006–08) and "Festival of All Korean Regions' Migrants' Life and Culture" (2007–08). He also had been chief representative of an NGO for the UN Convention on the Elimination of Racial Discrimination. He is active in conducting research on racial discrimination and cultural diversity, and worked as Korean Ministry of Culture, Sports and Tourism's counsel member on "Cultural Diversity" related works (2014–), director of capacity development course (2015, 2018), and member of the Special Committee to Respond to Hatred Discrimination of the Korean Human Rights Committee.



Wonjung Seok

Director, Group for Human Rights of Foreign Migrant Workers

Wonjung Seok started participating in labor movement as a student, and since the establishment of the Group for Human Rights of Foreign Migrant Workers in 2000, she has been involved in activities for the protection and improvement of migrants' human rights, including counselling workers, research, policy recommendation, and organization of migrant communities. Since 2015, she serves as director of the Seongdong Foreign Worker Center, Seoul City's support wing for migrants, and as co-representative and operations director of the Joint Committee with Migrants in Korea or the Korean network of groups for supporting migrants. Since 2016, she has been working on protecting basic human rights of children and juveniles with foreign roots as a member of the Network for Basic Human Rights of Children and Juveniles with Migration Background. She also works as counsel member of the Korean Human Rights Committee and the Ministry of Justice.



Ippei ToriiSecretary General, Solidarity Network with Migrants Japan

Since 1990, Ippei Torii has been working in support of protecting the rights of foreign workers. In 1993 he organized the Spring Labor Offensive (Shunto) for foreign workers, and had raised awareness for issues around foreign workers in Japanese communities. Since 2005, he has dedicated his efforts to support foreign technical training interns by highlighting their actual working conditions, i.e., working below minimum wage at JPY 300 per hour. In 2013, he was awarded the Trafficking in Persons Report Heroes by the US Department of State for his work in uncovering the conditions of the Technical Training Interns Program which is often criticized as "contemporary forced labor" and for his dedicated leadership in supporting foreign workers. He also serves as a member of the operations committee of the Network for Foreign Technical Training Interns, a special executive member and co-representative of Zentouitsu Workers Union, co-representative of the Japan Network against Trafficking in Persons, secretary general of the Small and Medium Labor Union Policy Network, and chief executive of Self Production Network.



Toshihiro Menju

Managing Director and Chief Program Officer, Japan Center for International Exchange (JCIE)

Toshihiro Menju joined JCIE in 1988 after working in the Hyogo Prefectural Government for 10 years. He has worked on various initiatives on multicultural cooperative community, migration policy, and grass-roots international exchange. He lectures at Keio and other universities. He serves as a member of the Japanese Cabinet Secretariat's Regional Attraction Creation Expert Committee (2018), Cultural Affairs Counsel of the Agency for Cultural Affairs, Japanese Language Committee of National Language Sub-Group (2019 –), and chairman of Shinjuku Committee for Multicultural Cooperative Community (2012 –). Mr. Menju is author of dozens of books, including "Genkai Kokka—jinkou genshou de Nihon ga semarareru saishu sentaku (Marginal Nation-Depopulating Presses Japan for Ultimate Choice)" (Asahi Newspaper Publications, 2017). The November 2018 article in a monthly magazine of Bungeishunju, "Boukoku no imin seisaku (Migration Policy Ruining a Nation)" received the 2018 Annual Readers' Award.

Mr. Menju completed his BA in law at Keio University and a master's in public policy at Evergreen State College.





Seul-gi KangActivist, Uijeongbu EXODUS Migrant Center

Seul-gi Kang is a second generation migrant, born of a Filipino father and a Korean mother. Born in Korea, she was raised in the Philippines for three years from age 4. After graduating high school in Korea, she conducted, in the Philippines, a focus group interview of children in poor region and Kopino (children born between Korean and Filipino parents), while studying international development at Miriam University in the Philippines. After graduating from university, she worked on regional development operations in Africa for three years as an activist for UNESCO Korean Committee and an international NGO. Upon returning from Africa, she worked in a Korean NPO in charge of organizing residents' movement and international networking. Since 2014, she is working at the Uijeongbu EXODUS Migrant Center to help support migrants.



Rey VenturaJournalist and visual creator

In 1987, Rey Ventura came to Japan as a student. He stayed in Japan after expiration of his student visa, and worked as a day laborer for one year in Kotobuki-cho, Yokohama. In 1992, he published this experience as "Underground in Japan" (Jonathan Cape). From 1996 through 2000, he worked as a Manila correspondent of the Asia Press International. He is currently teaching journalism and English at universities, while doing volunteer activities at an NPO. Among his publications are: Into the Country of Standing Men (Ateneo de Manila University Press, 2007), Cherry Blossoms in the Times of Tsunami and Tsunami (Ateneo de Manila University Press, 2014), among others.



Bhupal Man Shrestha
Chairman, Everest International School Japan

Bhupal Man Shrestha is from Nepal who came to Japan in 2003 for higher study. He completed his Ph.D. in economics in 2011 from Soka University. After that, he founded a joint venture company named GMT International Co. Ltd. in Shinjuku, Tokyo which published first Nepalese newspaper in Japan and worked as the Managing Director in the company. In April 2013, he established the Everest International School, Japan, for children of Nepalese immigrants in Japan. The purpose of this school is to provide English medium education with Nepalese culture and language for the immigrant Nepalese children. This school is authorized by the government of Nepal and first of its kind. Bhupal Man Shrestha serves as the chairman of the school. He is also actively involved in various activities of the Nepalese community in Japan. He served as an active member of the Shinjuku Committee for Multicultural Cooperative Community (2012–2018) and he is working as a member of the Tokyo Metropolitan Government's Committee for Promotion of Multicultural Cooperative Community since 2017. He also works as part time lecturer in Chiba University of Commerce and Soka University.



Soe Moe Thu

Chairman of Operations Committee, Korean Center for Myanmar Worker's Welfare

In 1995, Soe Moe Thu came to Korea from Myanmar. In 2003, he joined the migrants' movement and also played in "Stop Crackdown", a multicultural band composed of migrants. He worked as an executive of Burma Action Korea and as chief representative and principal director for the documentary on "Migrant Workers TV". In 2013, he started "Padauk Glory", a cooperative style company with the Myanmar community in Korea, and is active on protecting human rights and supporting children and the poor in the Myanmar community in Korea. He worked on the establishment of the Korean Center for Myanmar Worker's Welfare to promote protection of human rights and provide education for the Myanmar community in Korea, and serves as chairman of the Operations Committee. He received the "2010 Human Rights Award" from Korean Human Rights Foundation, and "Human Rights Award" from Korean Human Rights Committee. In 2011, he was officially recognized a refugee status by the Supreme Court of Korea.



Tran Phuong Nam

Secretariat, Vietnamese Association in Japan

Originally from Vietnam, Tran Phuong Nam arrived in Japan in 2006 as a student. Working as a delivery person receiving scholarship from *Asahi Shimbun*, he completed his studies at the vocational school and was admitted to the Tokyo University of Technology. He left the university his junior year and worked in a lettuce-growing farm in Nagano Prefecture, followed by a period of working as a system engineer at an IT vendor company, then as a bridge system engineer for another IT venture run by a Vietnamese owner. In 2018, he obtained his current job at the Vietnamese Association in Japan.

Nam had been involved in establishing the Vietnamese Students' Support Center in Kawasaki in 2013 and had been actively involved in providing support to foreign students and youth from Vietnam as a deputy manager of PR in the Vietnamese Youth and Student Association in Japan. He has also been an active member in various multicultural exchange programs, including the organization of the "Vietnam Festival in Kawasaki" and the "Vietnam Festival in Kanagawa".



Marip Seng Bu

Chairman, PEACE (NPO)

Marip Seng Bu arrived in Japan as a refugee in 1992. She organized the Kachin Community in Japan (2005) to support groups of refugees in Japan and abroad, and the Refugee Coordination Committee Japan (RCCJ) as a network for refugees (2008). In 2012, she started PEACE(NPO) to support the minority ethnic groups in Myanmar and serves as its chairman. Focusing on education and peace building, she runs a Japanese language education program for adults and a Myanmar language education for children with Myanmar roots. At RCCJ, she runs a study support program for second generation children of refugees in Japan in cooperation with a students' group "J-FUN Youth". Since 2012, she is a member of Shinjuku Committee for Multicultural Cooperative Community.



